

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

川北小	学校	児童数	80人
-----	----	-----	-----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	13.35	18.88	39.12	39.82	47.76	9.65	154.12	22.79	52.59
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	13.41	17.59	40.15	40.46	37.72	9.82	144.20	12.51	53.33
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

男子は、長座体前屈、20mシャトルラン、立ち幅とび、ソフトボール投げ、体力合計点が全国・大阪市平均を上回った。反復横とびは大阪市平均を上回った。握力、上体起こし、50m走は全国、大阪市平均を下回った。

児童質問紙において、質問項目「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。」に「好き」と回答する児童の割合は、大阪市平均は下回ったが、全国平均を上回った。1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、全国・大阪市平均を上回った。

女子は、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびが全国・大阪市平均を上回った。50m走、体力合計点は全国平均は下回ったが、大阪市平均を上回った。握力、上体起こし、ソフトボール投げは全国・大阪市平均を下回った。

児童質問紙において、質問項目「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。」に「好き」と回答する児童の割合は全国・大阪市平均を下回った。1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、全国・大阪市平均を上回った。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

体育の授業の充実をはじめ、運動会、なわとび運動、かけ足運動などを通して、児童の体力・運動能力の向上、運動に対する意欲の向上に努めた。

体育の授業においては、令和3年度より、授業のはじめにシナプソロジーを取り入れ、神経伝達系への刺激と活性化を図り、児童の運動に対する心の体の準備運動としている。児童の反応は良く、運動への興味・関心が向上している。また、学年の実態に応じた体つくり運動を行い、体力・運動能力の向上に努めた。高学年においては、体育専科制度を取り入れ、より児童の実態に応じた授業づくりを行えるよう工夫した。

休み時間には外遊びを奨励し、児童が自主的・主体的に運動に取り組み、体を動かすことの楽しさを実感することで、運動に対する意欲の向上を図った。

以上の取組等により、体力合計点は男子は全国・大阪市平均を、女子は大阪市平均を上回ることができた。

今後取り組むべき課題としては、更なる体力・運動能力、児童の運動に対する意欲の向上を図ることである。

運動に関する活動の充実や児童が運動に親しむ機会を設け、運動習慣を身につけさせる。体育の授業で学んだことを、休み時間等に自主的に体力づくりに取り組む児童を育てる。教員の校内研修を行い、授業力を高め、運動に対する教員の専門性を高める。ICTを1時間の振り返りやメタ認知的知識の獲得等に活用する。また、家庭に運動習慣の大切さを発信し、家庭と連携して運動に親しむ児童の育成に努める。